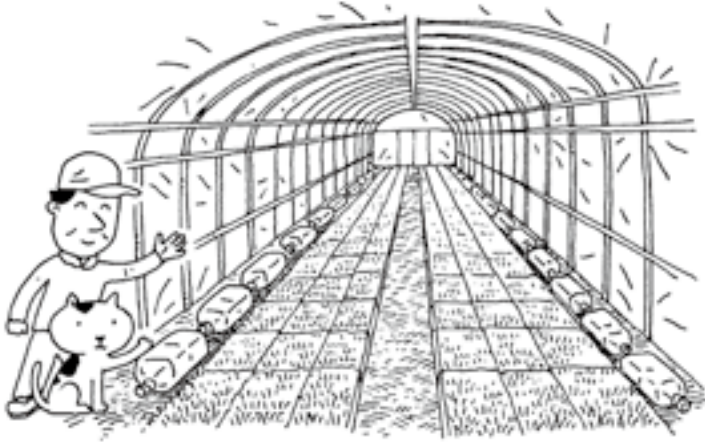




長野
から

イネ育苗ハウスの生育ムラ、ペットボトルで解決

渡邊健紀



白馬村の武田和男さんの悩みは、ハウスで育てるイネの苗の生育ムラでした。冷えやすいハウスサイドに並べた苗は生育が遅く、暖かい内側（中央）はよく育つ。全体が、カマボコのような形になるのです。

苗の生育をビシッと揃えたかった武田さん、22mの長さのハウスの両サイドに水を入れたペットボトル（2ℓ容量）をズラリと並べてみました。すると効果テキメン。ハウス全体が、草丈の揃った真っ平らな苗となりました。日中蓄熱したペットボトルの水が夜に放熱し、ハウスサイドの苗を温めるという仕組みです。

「周りにも勧めているが、なかなかやらないんだよな」と武田さん。春、武田家では家族総出でワイワイとペットボトルを並べるそうです。



石川
から

コンブ発酵液でアオムシがコロリ

白井 藍

春になるとキャベツやブロッコリーなどを食害するアオムシ。川北町でこだわりの無農薬米をつくる山田洋一さんは、自家用野菜につくアオムシをコンブで撃退しています。

作り方は簡単。細かく刻んだ乾燥コンブをペットボトルに3分の1ほど入れ、酵母菌液（山田さんはEM2号を使う）で満たします。あとは、フタをゆるく閉めた状態で1〜3カ月納屋などに置いておきましょう。フタを開けたときにプシュッと音がして、ひどく臭いニオイがすれば完成です。

このコンブ発酵液を100倍くらいに薄め、ジョウロや噴霧機などで葉面散布。すると翌日には、アオムシがゲロを吐いて死んでいるそうです。「コンブに含まれるヨードでお腹を壊し

たのでは」と山田さん。かれこれ20年この方法で退治しているそうです。



宮城
から

タクアン漬けのヌカで甘いトマト

樋口 維史

漬物やコンニャクなどの加工品づくりが得意な、南三陸町の阿部てつ子さん。『現代農業』で畑の野菜に塩をかけると甘みが増すという記事を読み、「タクアン漬けのしょっぱいヌカでも同じように効果があるのでは？」と閃きました。

タクアン漬けは3月頃までに食べきってしまうですが、漬け床のヌカは捨てずにポリバケツに入れて保存しておきます。これを、雨よけハウスに植えたトマトが活着したところ、株間に一つかみずつ置いていきます。「かん水するたび塩分がジワリと広がるからか、トマトが甘くなった」と阿部さん。いつもは捨てていたヌカがとてもいい肥料になったと喜んでいました。





城宮から

子牛にワカメは下痢に効く、
食い込みがよくなる

中村幸真

栗原市で繁殖牛を50頭飼う千葉博徳さん。繁殖農家の悩みのタネは子牛の下痢ですが、千葉さんは2年前からエサに湯のみ1杯分の乾燥ワカメを混ぜるようにしたところ、下痢が激減したといっています。子牛の死亡率はゼロになりました。

ワカメは乾燥の工程で細かく砕けた規格外品で、1kg1000円で沿岸部の加工場から買っています。ワカメのおかげでエサの嗜好性が高まるからか食い込みがよくなり、塩辛いからか水もよく飲むようになりました。おかげで胃が大きな子牛が育つといっています。さらに糞がにおわなくなりました。

被災地の漁業復興のために使い始めたワカメですが、今では千葉さんの経営に欠かせません。



山梨から

なくさない、汚れない、すぐ乾く、
一石三鳥の手袋ホルダー

杉谷直哉

農作業に手袋は欠かせませんが、どこかに置き忘れたり、泥付きのままポケットに入れて服が汚れたりすることはありませんか。市川三郷町で製茶用の桑を栽培する塩澤拓郎さんは、ち

よつとした道具を自作して、腰から手袋をぶら下げています。「服は汚れないし、濡れた手袋は自然と乾く。置き忘れもなくなりました」と塩澤さん。この手袋ホルダー、ホームセンターで手に入る材料で300円ほどで作ったそうです。

使うのは、金属製のやや強力な洗濯バサミと14cmのステンレスワイヤー、カシメ、カラビナ（開閉できる部品がついた金属リング）です。まず、洗濯バサミのバネ線にステンレスワイヤーを通して輪を作り、切断面どうしをカシメで固定。これをカラビナに取り付ければ完成。カラビナをズボンのベルトループに引っ掛け、洗濯バサミに手袋を挟みます。

仕事仲間にも作ってあげたところ、大変喜ばれたそうです。

